

—— 働きながら学ぶ青少年の未来と希望を育てよう ——

さん さん

燦々の太陽を求めて

(卒業生等の手記)

この本は、平成7年用お年玉付年賀葉書寄付金で作成しました。

財団法人 全国高等学校定時制通信制教育振興会

—— 働きながら学ぶ青少年の未来と希望を育てよう ——

さん さん
燦々の太陽を求めて

(卒業生等の手記)



この本は、平成7年用お年玉付年賀葉書寄付金で作成しました。

財団法人 全国高等学校定時制通信制教育振興会

燦々の太陽を求めて <第2集>

——働きながら学ぶ青少年を支援する手記集——

平成7年12月20日 発行

平成7年度 郵政省寄付金配分事業

発行者 財団法人全校高等学校定時制通信制教育振興会
〒105 東京都港区虎ノ門1-12-5
電 話 03-3501-3933
FAX 03-3501-3933

印刷所 ハヤシ印刷株式会社
〒103 東京都中央区日本橋箱崎町18-1
電 話 03-3669-2644
FAX 03-3669-9936

目次

まえがき.....石橋一弥

I

青春の意味.....仲代達矢 1

蛭雪四年を省みて.....諫山秀夫 4

「易しい定時制高校生活」入門.....前田昭英 11

少年の頃の思い出.....山口金八 19

柔道一筋の道.....村田利行 28

神戸で男がバレエ（踊り）をやっている理由.....貞松融 38

十五の夢・実現に向かって.....村本喜和子 47

わが人生.....井口茂 56

定時制通信制に学び、教えて.....松本一夫 67

水戸南高校を卒業して.....永井信子 76

定時制高校を卒業して.....江口秀則 85

戦後夜学生の奮闘記……………

定時制に学ぶ後輩の皆さんに訴える……………

II

通信制に学ぶ生徒群像……………

教えられ、育てられた定時制高校……………

死ぬまで生きること……………
青爾

消えた二角定期券……………

青春に光を求めてその後二題……………

あとがき……………

加藤 昭男 95

内村 良造 104

山下 碩彦 113

真城 瑞洋 122

関本 彰 130

大内 俊一 138

佐藤 正 147

荻田 敏夫 155

主目春の意味



仲代達矢

敗戦日本の定時制高校で
青春を迎えました。

あの時代に
ゆるやかなら
ずから、大変な
生活だった訳で
すが、私はそ
ろで、ウチふ
とら

仕事の自由さを味わったと
思っています。

学校へ行く事の素朴さとは、
なかなか出掛けへ行けない環境中
で知りました。俳優の仕事は
生涯修業ですが生涯修業た
いという気持ちを私はそこで手に入れ
ました。そこに

青春の意味があり

ました。

仲代 達矢 本名 元久。俳優・無名塾主宰。一九三二年東京生まれ。一九五三年都立千歳高校定時制卒。一九五五年俳優座養成所卒。一九五五年無名塾開設。一九九四年仲代劇堂建設。舞台…イプセン「幽霊」でデビューし、「ハムレット」「リチャード三世」など四七作品に主演。映画…黒沢明監督「影武者」「乱」他、小林正樹監督「人間の条件」「切腹」他、市川崑監督「炎上」「鍵」他、その他木下恵介他巨匠の作品一二四本に主演。テレビ…「砂の器」「忠臣蔵」「清左衛門等残日録」「台地の子」(一九九五年)「秀吉」(一九九六)等四〇本余に主演。芸術選奨文部大臣賞、日本シエークスピア賞、ブルーリボン賞(二回)、文芸芸術勲章シュバリエ賞(フランス文化省)等受賞多数。

蛭雪四年を省みて



諫 山 秀 夫

時あたかも終戦五十周年を迎えて、日本人としてのアイデンティティーを省みる折にあたり、全国定通振興会の計らいで筆を取らして頂けることを名誉限りない思いで、心から感謝申し上げる次第であります。

昭和二十年八月十五日敗戦。そして人心の動乱しておる最中に、いち早く教育の改革が断行され、昭和二十三年に学生改革の目玉として定通教育が出發しましたが、私どもの小さな大分県日田市は、市政施行後八年、人口六万人の街で学制改革の波に乗れず、翌二十四年に夜間定時制高校の発足をみたところです。後日の話によれば、市議会の強い要望で開校が決まったそうで、今は亡き先人の賢明なる判断に深く感謝を申し上げる次第です。その第一回生として二十四歳で入学を許された私は、今六十九歳の大分県議会議員であります。

十六歳の四月、向学心に燃えながらも貧しい家庭の中で進学が許されず、泣く泣く陸軍軍属として酷寒こつかんの満州（現在の中国東北部）へ出発したのです。当時、中等学校程度の教育が受けられるということ、飛行機の整備工として働きましたが、気候の変化がはげしく、徹夜作業などのかかわりもあって胸部疾患しゅかんになり、陸軍病院の白衣を着ること約一年有半、転々と病院をvari、最後は大分の陸軍病院へ転送されました。特別に痛みもなく、食餌じじ、大気、療養で散歩もできる楽な患者でありましたので、毎日を読書で過ごし、トルストイの「人生読本」、パールバックの「大地」等々、あらゆる本を読むことができました。この頃に自分の人生観が変り、定時制入校につながり、また運のよいことに戦局の変化で、私の部隊が栃木県の宇都宮へ撤退し、昭和十九年四月に追いかけるようにして原隊復帰しました。

そして同年十二月六日、数年間患っていた父が死亡。母はすでに私が十一歳の時に亡くなっていましたので、五人兄弟の長男として、二十年四月軍属を退職、家計を背負い故郷で働きながらも向学心はおとろえず、終戦を経て二十四年四月、働きながら学べる日田高校定時開設にこおどりして二十四歳の高校生となったわけがあります。当時、それぞれ家が貧しく、向学の心溢あふれる者どもが五〇人定員に六〇

一七〇人の受験者でしたが、中には子供を連れて入学式にのぞんだ人もおりました。修学旅行先では先生と間違えられる生徒もあり、大笑いした思い出も遠い昔となりました。

校舎は、開校した県立女学校の跡で男女共学の教室には、はだか電球が数個ぶらさがり、ガラスの破れた窓から吹き込む風は寒く冷く、思わずオーバーで足くるみながら講義にすい込まれ、暖かい時は仕事の疲れでついウトウトするときもありましたが、そんな時は鉛筆の芯でひざをつつき必死になって眠気と闘い、先生の話聞く。また、体育では運動場の片すみに竹竿を立て電気工である生徒が電線を張りめぐらし、はだか電球の小さな明りで競技にかん声をあげました。生徒はあかく、正に生き生きとした眼、顔であり、健全なる青春を謳歌することができたのは本当にありがたく思う昨今であります。

敗戦直後、窮乏の食生活に耐えながら新しい日本国の建設に向けて高らかな鎚音の響く中で、就職はどこにでも求められました。夜間高校の始業は午後六時からで、夕方仕事を終えた生徒は、昼食のから弁当と教科書を小脇に抱えて学校に走り、運よく焼いも屋があれば走りながら食べました。まだ学校に給食施設がないからです。

昭和二十四年十月からユニセフ（国際児童緊急基金）からの救援物資である粉末のミルクがドラム缶入りで支給され、一時限あとの休憩のひとときに、から弁当の中にお湯で溶かしたミルクをすすり、ストーブのそばで先生方と語りながら、意気が合えば放課後先生を誘って、縄のれんをくぐる生徒もいました。外地に出て教鞭を取っていた先生方がどんどん復員してきて、ずい分と気骨のある先生方がいたからでしょう。先生は教育を、我々は一般社会生活の知恵などを語り合う、といった、今では考えられない学校生活でありましたが、そんな中の四年間では、やはりかなりの脱落者が出ました。職場が変り時間がとれない人、自ら向学の意志を無くす人それでも我々は、学業成績にこだわらず四年間通い続けることが大切であると言い聞かせ、ふれ合い、友情を深めることが通信教育ではできない学習であると思いました。昭和二十八年三月七日、二十八歳で併設校である大分県立日田高等学校の卒業生である証書を頂き、感極まるものがあり涙しました。

このようにして、四年間働きながら学び卒業を果した同級生は二十八人であり、それぞれ職場に別れて生きました。私は卒業の直後、三月二十一日春分の日を妻をめとり、九月から自営で砂利販売業を始め、岳父から教えてもらった「一人前なら

一人前」という言葉が頭から離れず、妻と二人で朝早くから夜遅くまで体の限り働
き続けて建設業の許可をとり、昭和三十一年より株式会社諫山工務所をおこし、初
代社長に就任致しました。運と申しますか、時流と申しますか、昭和二十八年夏に
日田市で大水害があり、家屋の流失、倒壊の復旧が急がれる数年の出来事で、会社
の方も極めて業績が伸び、加えて大分市で努めていた建築家の家内の実兄が帰省を
し、専務として実力を発揮してくれたこともあり、今ではせまい街ながら建築部門
では日田市に並ぶもののない会社の地位を築いてまいりました。その間、定時制で
学んだ諸々の事がいろんな意味で大きな力になり、教育のありがたさをしみじみ感
じております。

昭和四十二年四月四十歳の春、古い考えの市政に新風を吹き込む時機ではあるま
いかと市議会議員選挙へ奨め^{すす}める人もあつて立候補、上位当選を果しました。その折、
町の角々に貼られるポスターに、ともすると肩身のせまい定時制卒であつたが、
堂々と日田高定時制卒と書きこみ同窓の方々に喜ばれ、連続五期二十年その責を果
させてもらい、名誉ある市議会議長職まで努めたあと、この際後輩に道を譲るべき
であると決意をはじめた昭和六十一年の九月、県議会議員をめざすべく意を固め、

大物県議を相手に、少い半年間を懸命にかけずり回り、はいずり回り、金で票を買わない選挙をしよう、流れを変えようと訴えてたたかいましたが、残念ながら僅か八〇〇票差で敗戦の憂き目を見ました。しかし、多くの方々の支援を無にすることなく、次をねらう準備に入りました。はじめて味わう落選の辛さであり、私にとりましておおきな修練の場でありましたが、勉強の場でもありました。しかしながら人間万事寒翁ばんじさいおうが馬とか、四年後の平成三年には、相手候補が高齢と病弱のため辞退、二人区ながら新人も出馬せず無投票当選となり、六十四歳の遅まきながらも大分県政壇上に立たせてもらい、定時制卒業者の面目を果させて頂きました。人間の運はしみじみと恐ろしいものと思いますが、一期四年間が終る平成七年今年の統一地方選では、四月九日投票の県議選に重ねて新人の名のりもなく、三月三十一日告示と同時に当選を果し、願って文教常任委員会に所属し、副委員長として大分県教育、特に高校定通教育に貢献すべく勉強を始めています。昨今であります。

叩けよ、さらば開かれんとか、いささか時の流れで変ってきている定時制でありませんが、働きながら学ぶ君達の努力は、きつといつの日か報われるでしょう。さらば「燦々の太陽を求めて」。誰の力でもなく汗と涙で自分の手でつかみ取らんこと

を切に希望してやみません。

頑張れ。



第一期生同窓会、前列左より2人目

諫山 秀夫 大正十五年大分県生まれ。昭和十六年市立三芳尋常高等小学校高等科卒業。陸軍軍属として満州へ。十八年、十九年陸軍病院で療養。十九年、二十年栃木県宇都宮飛行学校勤務。二十四年日田高等学校定時制入学。同二十八年卒業。二十八年自営業開始。現在社会会長。四十二年日田市議（五期二十年）。平成三月大分県議会議員初当選。現在二期目。日田高定時制同窓会長、日田高同窓陽柳会副会長。定通四十周年記念全国定通振興会会長表彰、海部文部大臣より功労者表彰を受く。現在大分県定通振興会副会長。

「易しい定時制高校生活」入門



前田 昭 英

一、私の定時制高校入学の動機

私は第二次世界大戦末期、中学（旧制）入学機を迎えたが、家庭の事情で進学できなかった。

そこで、国民学校を卒業してから、陸海軍の少年兵への道を選んだ。ひ弱な体質であったが、幸い陸軍の少年通信兵に合格した。入校一年余で終戦になる。そこで復員することになるのだが、陸軍省は通信という縁から、通信講習所への入所を幹^あ旋^{せん}してくれた。以後四十年余り、電信・電話畑に勤務することになる。

終戦直後は労働運動が盛んであった。私が勤務していたのは、局員の少ない小さな職場であった。そんな所で、生意気なもってもらしい発言をする私は、早速労働組合の役員に祭り上げられた。数年後には、書記長になった。そんなある年、地域

としては小さな組織であるにかかわらず、無謀にも市會議員選挙に候補者を擁立することとなった。書記長である私は、候補者の会計責任者である。選挙の結果は惨敗であった。

このころ、私は学力上の無力感にさいなまされていた。考えてみれば、軍隊にしろ通信講習所にしろ、まとまって一般学を学んでいない。そして職場では係長であったが、部下に大学卒の若者が配属され始めた。それも中央・立教・明治と一流の顔ぶれである。

家庭では、結婚後初めて長女が誕生したばかりであった。

先の無力感に、選挙の敗北は追い打ちとなった。そこで私は決心をした。「十年革命を起こそう」である。「生まれたばかりの娘も、十年たてば十歳の能力が身につく。私も十年努力すれば、自分で満足する人格が完成するだろう」と、自分に言い聞かせた。(それから現在までの生き様を振り返れば、「革命」とは笑止千万だったというほかはないが)まず選挙惨敗の責任をとるとして、労働運動から手を引いた。そして、定時制高校に入学することにした。昭和三十一年、私は二十七歳であった。幸い労働運動を通じて、高教組の先生を知っていた。その先生は「二年に編入